フランス国民議会、ブドウ樹伐採支援に1,000万ユーロを承認

ブドウ樹伐採支援の需要が予想を上回り、政府の奨励金を確保するためフランス国民議会が1,000万ユーロを承認

2026年11月13日（金）



フランス国民議会は11月12日木曜日、ブドウ樹を伐採するワイン生産者への支援を拡充するため、1,000万ユーロの修正案を承認した。2025年後半に発表された支援策への需要が予想を上回ったことを受けた措置だ。

修正案第105号は、2026年の年末予算調整法案をめぐる審議で採択された。議会の公式集計によると、賛成45票、反対4票で、64人の議員が投票に参加した。

修正案を提出したジャン＝ルネ・カズヌーヴ議員は、政府が約束した伐採奨励金を「確保する」ために資金が必要だと議場で述べた。フランスの農業と農産物輸出を支える主要部門であるワイン産

業は、輸出関税、数年にわたる気候関連の危機、消費の減少に直面していると説明。事業への申請が当初の予想を上回ったため、この1,000万ユーロを充てるとした。

この措置の対象は、フランスの議員が「prime à l’arrachage」と表現した、ブドウ樹を引き抜く生産者への給付金だ。この種の制度は一般に、生産の維持が難しくなった地域でブドウ畑の面積を減らすために用いられる。フランスでは、需要の低迷や輸出圧力、度重なる異常気象に直面するワイン産地があり、この問題への関心が高まっている。

修正案は政府の支持を得た。公共活動・会計担当相のダヴィド・アミエル氏は、提案に賛成すると議員らに伝え、産業にとって非常に厳しい時期が続いたことを踏まえ、ワイン業界に必要な措置だと述べた。

財政委員会の総括報告者フィリップ・ジュヴァン氏は、提出が遅かったため委員会では修正案を審査していないと説明した。目的は理解しているとしたうえで、農業・食料・森林・農村問題の予算枠は約36億ユーロに上ると指摘した。政府が立場を示す前に、この枠内で1,000万ユーロを捻出できるかと問いかけた。政府の支持が示された後、議会は採決に進んだ。

審議は、2026会計年度の終了を前に支出と予算配分を調整する年末予算法案をめぐる長時間の議事の中で行われた。同じ会期には、農業または林業の作業向けに非道路用軽油を購入した企業への特例支援を完了するため、政府が支持する別の農業関連措置も承認された。これは1,200万ユーロの修正案だった。このように、予算審議では農業支援が超党派の関心を集める分野の一つとなっていた。

ブドウ畑に関する修正案は、幅広い支持を得た点で目立った。同じ会期に審議された他の多くの修正案は、政府や財政委員会が否定的な見解を示すことが多く、否決された。一方、ワイン関連の措置については政府が支持し、報告者も反対しなかったため、議場で広い賛同を得た。

飲料業界にとって、この採決はフランス議会の手続き以上の意味を持つ可能性がある。フランスは今も世界有数のワイン生産国であり、ブドウ畑の再編をめぐる決定は、ブドウの供給、生産者の財務状況、長期的な市場圧力に直面する地域の調整の進み方に影響し得る。消費の低迷や貿易上の圧力、気候被害が生産者に重くのしかかり続ければ、ブドウ樹の伐採に対する公的資金の追加は、当局が過剰生産能力をより円滑に管理する助けとなる可能性がある。

この採決によって措置が自動的に法律となるわけではない。国民議会の法案記録によると、2026年の年末予算法案は修正案が審議中に採択された後、11月12日木曜日に議会で否決された。つまり、1,000万ユーロの配分は議会審議のこの段階では承認されたものの、最終的な行方は予算法案全体の審議の進展に左右される。